

大企業の内部留保と労働組合の役割

長崎地区労 春闘討論・学習会

長崎地区労の春闘季に取り組みされる「第49回春闘討論・学習会」が、2月1日～2日「長崎あぐりの丘高原ホテル」で開催された。

大会では、労働者の厳しい職場生活実態の中で、大企業の利益剰余金(内部留保)は過去最高を更新している現状と労働組合の役割を学習した。

職場の闘いと報告では、長崎バスユニオン、県タク、長崎市職労、長船分会、郵政ユニオン、全国一般合同、衛公労、九高船陸員、県教組、国労の10名から報告があった。

国労長崎分会(豊田)からは、要員削減とワンマン運転、鉄道安全・安定輸送の問題、賃金抑制施策、新幹線問題や、組織拡大の取り組みについて報告があった。(豊田)



【長崎地区労 春闘討論・学習会】

労働条件改善と 安全・安定輸送の確立を ＝九州本部拡大委員会＝

2月4日、北九州市『ウェル戸畑』において労働講座と九州本部拡大委員会が開催されました。

(長崎地区本部からは、豊田、神近、上之濱、島田、岩崎が参加)

労働講座では国労米子地本・倉下執行委員長より2018年3月31日に廃線となった三江線(島根県江津市と広島県三次市)のその後の現状と課題について講義がありました。九州では未だ復旧の見込みが経っていない日田彦山線が危惧されるところです。

午後より九州本部拡大委員会が開催されました。久留米運輸センターの佐藤委員が議長に選出され、千々岩九州本部執行委員長の挨拶に続いて



【発言する長崎地区本部上之濱書記長】

松川国労本部中央執行委員長より挨拶を受け、その後、各地区本部拡大委員7名より現状及び経過等の報告がありました。今後、「合理化」反対、労働条件改善、安全・安定輸送の確立を求めて、共に頑張りましょう。(上之濱)

車掌協議会総会の開催に向け行動

長崎乗務センター車掌乗務員会のメンバーで2月3日、長崎で開催される車掌協議会総会の開催予定地の川棚町『国民宿舍くじゃく荘』とその周辺を見学した。

始めに巨大な3本のコンクリート製電波塔の旧佐世保無線電信所(針尾送信所)が見える『くじゃく荘』の立地を確認し、第二次世界大戦中に先生に指導された高等部の生徒で掘ったといわれる旧宮村国民学校地下教室「無窮洞」や旧日本海軍の秘密施設「片島魚雷発射試験場跡」を見学した。

第27回車掌協議会総会は、5月26日に開催予定。翌27日は、その周辺を散策予定で、宿舍からの距離などを確認した。(米満)



【片島魚雷発射場跡】